

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	クマモトリバース
事業名(副) ※任意	コロナ禍でのハイパーリンク型災害復興支援

入力数 主 8 字 副 20 字

実行団体名	一般社団法人 BRIDGE KUMAMOTO
資金分配団体名	一般財団法人日本未来創造公益資本財団

**優先的に解決すべき社会の諸課題**

領域	分野
1) 子ども及び若者の支援に係る活動	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	④働くことが困難な人への支援
	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	⑥地域の働く場づくりの支援
	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会 の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍により遅延している熊本豪雨被害を受けた地域の復旧復興</li> <li>・「コロナ×災害」の対応方</li> </ul>
----------------------------	--

入力数 45 字

**SDGsとの関連**

ゴール
_11.住み続けられるまちづくりを
_3.すべての人に健康と福祉を
_8.働きがいも経済成長も
_16.平和と公正をすべての人に

実施時期	2021年4月 ~ 2022年2月	事業対象地域	全国 特定地域 ( 熊本県 )	事業対象者： (事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む)	熊本豪雨により被害を受けた地域の活動団体や地域住民、災害対応に関わる方々。 BRIDGE KUMAMOTOのフォロワー。	事業対象者人数	約10,000人 ・団体関係者90人：45団体×2名 ・団体経由の住民やファン層450人：45団体×10名 ・冊子を通して5000人 ・Facebookフォロワー5000人
------	-------------------	--------	--------------------	---------------------------------------	---	---------	--

I.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
<p>奇しくも『コロナ×災害』の第一号となった熊本豪雨では、他県からのボランティア受入れが制限されたり、従来の災害復興対応が機能しなくなりました。行政も民間団体も住民も全員が、復旧作業を手探り状態で進めるしかありませんでしたが、毎年のように起こる自然災害からの復旧復興も『withコロナ』前提とした上で考える必要があります。</p> <p>創造力は奪えない。私たちはクリエイティブの力で未来を創造します。</p>
(2)申請団体の概要・事業内容等
<p>2016年熊本地震をキッカケに設立。熊本地震のPRやSDGsに関するものづくりを実施。</p> <p>災害で使われたブルーシートを再利用したバッグを制作販売し、売上の一部を寄付する仕組みを構築し2017年度のグッドデザイン賞受賞。他の被災地域でも同様の取組みが広がり、これまでに800万円近い寄付を生み出す。2020年熊本豪雨直後に基金を設立し、2000万円以上の寄付を国内外から集め現地で活動する支援団体に助成。</p>

入力数 (1) 192 字 (2) 199 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
<p>&lt;課題&gt;</p> <p>コロナ禍においての災害ボランティア人数が圧倒的に少ない。  <a href="https://kumanichi.com/news/id100163">https://kumanichi.com/news/id100163</a>          今後大規模災害が発生した際に、その対策に関して周知されていないため、同じ状況を繰り返す可能性がある。</p> <p>&lt;状況&gt;</p> <p>県外からのボランティア受入れ制限だけでなく、県内移動も制限があり、活動前にPCR検査を受ける事を求められている。PCR検査に費用がかかる事、もし陽性反応だった場合を考えると精神的・物理的負担があり、今まで以上に現地で活動する事へのハードルが上がっている。</p> <p>メディア受入れも制限があるため、現地がどんな状況なのか、どんな支援が必要なのかを知られる事が少なくなり、風化のスピードが速い。現地ではまだ支援を必要とする人がいても気づかれず、取り残されてしまう。</p> <p>&lt;解決策&gt;</p> <p>令和2年7月豪雨で実際に活動した民間ボランティア及び社協の取り組みについて、取材し、動画、Web記事、冊子等にまとめる。現地情報、民間ボランティアがどう立ち上がって活動してきたのか、どんな関わりができるのか、ボランティアなどの協力を求めている人とボランティアしたい人が欲しい情報を載せる。コロナの状況を見ながら、現地へのボランティアツアー企画や、企業へのCSR提案、現在も活動している団体がwebサイトを通じて直接ボランティア申込みできる環境を構築する。</p>

入力数 589 字

III.事業内容

(1)事業の概要
<p>1) 熊本豪雨で活動した民間ボランティアや社協の取組みなどを取材し、動画や記事にし、冊子とwebサイトへに纏め誰でも知ることができる環境を構築する。これまでの活動から業種を問わず様々な企業や団体との繋がりを活かしたハイパーリンク型の災害復興支援を構築する。</p> <p>2) コロナの状況次第で以下を順次行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・球磨川での川遊びなどのアクティビティとセットにしたボランティアツアーを企画し、現地にお金が落ちる仕組みを構築する。</li> <li>・企業の研修活動としてボランティア活動に取り組めるよう構築する。</li> </ul> <p>企画力や実行力、チームマネジメント、現場の判断力、課題解決力などをボランティアを通して学び考える場を提供する。</p> <p>3) 冊子完成後、関東でお披露目イベントを開催。撮影した写真や動画なども展示する展示会のようなイベントを想定。          写真はパネル作成し、今後も写真だけ輸送すれば写真展が開催できるようなものにする。</p>

入力数 394 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<p>1) 『withコロナ』対応の事例として、これからの災害対応のモデルケースの概要ができていく。</p> <p>2) 被災地に訪れる人が増え、災害を自分ごととして考えられる人が増える。</p> <p>企業や団体のCSR活動や研修の一環として、被災地へのボランティア活動が当たり前となっている。</p> <p>災害で命を守る行動が取れる人、発災後に自ら行動できる人が増える。</p>

入力数 164 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>1) 冊子や動画、サイト記事で、現地の状況を把握する人が増える。</p> <p>2) レジャーを行う団体がアクティビティ×ボランティアを営業ツールの1つとして行っている。</p> <p>企業や団体が被災地ボランティア活動を行っている。</p> <p>3) 冊子お披露目、写真展のイベント開催</p>	<p>1) 動画やサイトの閲覧者数、冊子5000冊の配布数</p> <p>2) ツアー参加者数、ボランティア参加者数</p> <p>3) 2月に関東で開催</p>	<p>1) サイトや動画の閲覧数のカウント、冊子の配布カウント</p> <p>2) イベントや研修参加者数をカウント</p>	<p>1) 冊子を私たちの活動に賛同、応援頂いている県内外の企業や団体100ヶ所ほどに配布。BRIDGE KUMAMOTOのアイテム購入者に付録として添える。1ヶ月で最大100名ほどの購入実績。</p> <p>2) ツアーやボランティアで現地を訪れる人が100人。特に夏は川遊びとのアクティビティが再開するともっと見込める。</p>	<p>1) 冊子配布：2022年1月</p> <p>次の連携方模索：2022年2月</p> <p>2) ボランティアツアー開催：7月</p> <p>企業研修開催：9月</p> <p>3) 2022年2月</p>

(4)活動	時期
関連各所へ企画説明、協力正式依頼	3月～
BRIDGEKUMAMOTO基金の助成先団体（約40団体）に趣旨説明とヒアリング実施、順次動画撮影	4月～毎月1回は現地へ
関係各所と定期的な打合せ実施	4月～
企業・団体への研修構築し順次展開	4月～
GWでのボランティア企画、実施	4月～5月
発災から1年の7月3-4日（土日）で、ボランティアツアー企画	5月～7月
夏休みでのボランティア企画、実施	6月～9月
動画撮影後、編集・アップデート作業	5月から順次
関係者ヒアリング実施後、編集・サイトへのアップデート作業	5月から順次
イベント会場調整、打合せ	10月
写真パネル作成、打合せ	10月
動画、サイト、冊子完成	12月
冊子配布	2022年1月
冊子お披露目、写真展開催	2022年2月

#### IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲田悠樹：企業や団体向け説明、研修構築</li> <li>・村上直子：現地活動団体取り纏め、情報収集</li> <li>・北村孝之：ボランティアに関する全般のコーディネート、アドバイザー</li> <li>・大塚淑子：サイト取り纏め、ライター取り纏め</li> <li>・村上直子：全体取り纏め</li> </ul>
(2)他団体との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアインフォ</li> <li>・被災地での活動団体（BRIDGE KUMAMOTO基金で助成した約40ほどの団体）</li> <li>・Yahoo!ボランティア</li> <li>・県内外のクリエイター</li> <li>・KVOAD（連携予定）</li> <li>・熊本市社会福祉協議会（熊本水害時に連携実績あり、本企画についても連携予定）</li> <li>・アマナ：写真パネル制作</li> </ul>
(3)想定されるリスクと管理体制	<p>現地取材やボランティア参加によるコロナウイルス感染拡大。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者情報の管理（氏名や住所、渡航歴、参加当日の体温、体調確認）</li> <li>・蜜にならない作業環境（現地まで極力少人数で。アルコールやマスクなどの対策）</li> </ul>

#### V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有	無	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
<p>・クマモトリバースプロジェクトは現地へのボランティアを増やすために、昨年からはボランティアインフォと活動開始。対応方は変更せざるを得なかったが、コロナによるこれからの災害対応が遅れてしまうことへの危機感は変わらずあるため継続して活動して行く。  <a href="https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000031868.html">https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000013.000031868.html</a></p> <p>・熊本豪雨では国内外のデザイナー、ライター、映像作家、ナレーターなど250名ほどのクリエイターが私たちの活動に賛同し、様々な形で参加。今回の冊子作成やサイト纏めに関わる方々もこのグループから募集予定。以下はそのグループの方々と行った「声の寄付」についてのプレスリリース。  <a href="https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000031868.html">https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000014.000031868.html</a></p> <p>・BRIDGEKUMAMOTO基金に寄付くださった方向けに、助成先の団体紹介動画を作成。  <a href="https://www.youtube.com/channel/UC61Y1bETHC27HI-6av8EbVA/videos?view=0">https://www.youtube.com/channel/UC61Y1bETHC27HI-6av8EbVA/videos?view=0</a></p>				